

## 第13回ケアラボ@きたかみ



主催 北上市・北上市地域包括支援センター主任介護支援専門部会  
北上市在宅医療介護連携支援センター

7月18日、市民交流プラザでケアラボ@きたかみ（多職種事例検討会）が行われました。第13回は参加者91名27職種で、福介医い話をしませんか♪と題し、障がい福祉チームとのコラボとなりました。最初に北上市長寿介護課 高橋翔樹氏と福祉課障がい福祉係 山内大地氏より制度の説明がありました。今回の事例提供者は、愛の泉 関山美津子氏が行い、川村哲也氏は進行を、スーパーバイザーは北萩寮 川村護氏が行いました。グループワークは、本人の意向と支援者の意向について話し合う「働く人生のベテランさんについてあれこれ考えてみよう」「目標設定と総合的援助の方針について」を行いました。障がいと介護の問題への支援として「住まいを考えてあげたい」「好きな仕事をさせたい」「できるなら今のところで生活を」などの提案がありました。「目標設定と総合的援助の方針について」は、これからの短期目標と長期目標をどこに置くかなど多くの意見が出ました。本人を丸ごと理解するように努め、本人自身の意向を知ることの大切さを学び、障がいのことや支援サービスについての知識を得るなど、横のつながりと他職種への理解が深まった検討会となりました。



## 黒沢尻北地区心づもり勉強会

主催：社会福祉協議会黒沢尻北支部

8月1日 黒沢尻北地区交流センターにて「心づもり勉強会」が開催されました。黒沢尻北地区センター長 渡辺昌洋氏のあいさつの後、長寿介護課包括支援係主任保健師 住吉香奈子氏より配布状況や活用の声などのお話があり、岩手県立中部病院 副院長星野彰医師より『わたしのきぼうノート』が出来るまでの経緯と活用方法について説明していただきました。その後、小地域ネットワークで集まった44名と書きっこ会を行いました。エンディングノートなど書いてみた経験のある方は、すらすら書き進めていました。「家族と話すきっかけとしたい」「これからの人生について考えるきっかけになります」などの意見が聞かれ盛況でした。



## 注文を間違える料理店ってなあに？



主催：注文のやんべな料理店プロジェクト

共催：岩手県社会福祉士会中部ブロック

リレーフォーライフきたかみ実行委員会

北上市在宅医療介護連携支援センター

後援：北上市

8月10日、日本現代詩歌文学館にて「注文を間違える料理店ってなあに？」という講演会が開催されました。講師は、(株)大起エンゼルヘルプ取締役 和田行男氏で、認知症である方のQOL（生活の質）やADL（日常生活動作）向上に貢献されており、書籍執筆やご自身が企画したプロジェクト「注文を間違える料理店」などの認知症理解を深める活動を行っている方です。講師の活動を追ったNHK番組では、認知症の方でも周囲の協力や理解があればその人らしく生きられることが放送されました。認知症に対する見方、寛容な社会の在り方について、多くの動画を交えてご講演頂きました。超高齢化社会の先端に行く日本から世界への発信として、注文を間違える料理店について詳しい説明がありました。厚労省の食堂や東京のレストランで、アルツハイマー認知症の方がホールで働いて注文を聞きに来ます。お客様は、注文を間違ってもいいことを承知の上で来店します。間違えても「まっいいか」とドキドキを楽しみながら食事をします。従業員もお客様も笑顔が素晴らしく、認知症の方がありのまま、本人がやりたいことができる寛容な社会を目指すものです。認知症への先入観を変えていくことは難しいと感じながらも、チャレンジ精神で、楽しみながら生活できたらいいなあと心から思えたひと時でありました。今回は、北上での「注文のやんべな料理店」のプロジェクトを立ち上げたホームクリニックえんの医療事務 菊地和恵さんから、開催に向け講師をお呼びした経緯など詳しくお話を聴くことができました。認知症の理解が深まり、ここ北上が、病気になっても笑顔で暮らせるまちになっていくことへの期待が高まります。なお、この料理店は申込された方だけの参加で開店されています。

## 二子地区心づもり勉強会

主催：二子地域計画推進委員会・健康福祉部会

8月20日、二子地区センターにて心づもり勉強会が開催されました。北上市社会福祉協議会二子支部長 川辺泰雄氏からご挨拶の後、北上市長寿介護課課長補佐 木野渉氏がノートのできた経緯について説明、ノート説明を在宅きたかみ 柴内一夫医師が行いました。参加者28名は、実際にノートに書いてみましたが、すらすら書ける方、こんなこと考えてもいなかったという方、家族と話し合っていなかったが大事なことだとした方、家族で話してみようというきっかけになった方など様々でした。自宅で実際介護をして看取った、その様子をお話ししていた方や、施設に入所している家族の様子を見て私も施設に入りたいとお話しする方もおりました。思いは変わるものですし、変わった都度、ノートは書き直しが可能です。心づもりして備えておくことや、話し合っただけで伝えていくことは大切だねとの発言が印象的でした。



医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会

## 第2回「療養の山」「チームアプローチ」を理解する

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

8月22日、北上済生会病院大会議室にて、ホームクリニックえんの院長千葉恭一先生を講師に迎え「療養の山」「チームアプローチ」を理解することを目的に医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会が行われました。参加者は56名で12職種の参加がありました。病院の急性期治療とは違い、本人と家族が望むところで、支え合いながらその人の生活の質を保つようみんなで目標を共有して、お互いの役割を知りつつ、全体像を広い視野で見えていくことについて、病気や障害があってもその人の生きる力を引き出し、その人らしさを考えて支援することや残っている機能を引き出し予想されるリスクを小さくして本人が望むところを支援していくなど、事例を交えお話していただきました。介護者や支援者の不安を考えながら、「私たち支援者は家族や本人の不安にならないように支援していく」という在宅医療介護の支援が出来たらと考える研修になりました。それぞれの職種が「あるべき役割の在り方」を踏まえ、みんなで「その方のあるべき姿」を求め、チームで質の高い支援をしていけたらよいのではないのでしょうか。



## 地域住民における『わたしのきぼうノート』勉強会



主催：黒沢尻北地区交流センター

黒沢尻北地区交流センターより依頼があり、9月12日と10月16日に地区住民の生涯学習として交流センターで実施している“北大学”の受講生に向けて「わたしのきぼうノート」の勉強会を開催しました。

9月12日には“女性コース”の24名に向けて、市長寿介護課がノートの紹介を行った後、ノートのお試し会を実施しました。10月16日には“いきいきコース（高齢者向け）”の35名に向け、在宅きたかみ 柴内一夫医師を中心としてノートの紹介を行い、書きっこ会を実施しました。実際にノートに書きこんでみる時間では、「自分のことなのに意外と分からない」「いざとなると書けない」と取り組みの難しさについて感想が聞かれました。スタッフの地域包括支援センターや北上済生会病院の医療介護専門職等は、参加者それぞれの考えや感じ方を尊重した進行を行い、参加者同士の活発な意見交換をサポートしました。特に“介護が必要になった時の自分の想い”については、「自分はこうしてほしいというはあるが、家族の気持ちを考えると（遠慮して）本音を書くことが難しい」という意見が多く聞かれ、一人で考えるだけでなく、様々な情報や考え方を知った上で、繰り返し話し合っていくことの大切さを共有することができました。



# 令和元年度第2回入退院支援作業部会

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

10月10日、北上済生会病院中会議室にて、今年度第2回目の入退院支援作業部会が開催されました。完成予定の「北上市入退院支援のハンドブック」の最終確認について、内容説明と今後の配布スケジュールについて説明後、修正部分の提案がありました。このハンドブックは、在宅施設のケアマネジャー・生活相談員と医療機関の看護師・ソーシャルワーカーが、病気や障害を持つ高齢者等の本人・家族の意向を汲んだ、尊厳あるその人らしい生活を継続する支援を実施していくことや、地域における生活をより効果的に効率的に支えていくことを目的としています。ハンドブックを使用した研修会開催については、第3回介護支援専門員スキルアップ研修会と、3病院連絡会での研修会を3月初旬に予定しております。



## 第5回 北上認知症連携セミナー

### ～多職種連携で支える認知症～

共催：北上医師会 (株)バイタルネット 武田薬品工業(株)ヤンセンファーマ株式会社



10月10日、ホテルシティプラザ北上で第5回北上認知症連携セミナーが行われました。  
～多職種連携で支える認知症～というテーマで参加者は17職種85名の参加がありました。

セッション1. 『認知症と生活習慣病～認知症の発症・進行抑制を目指して～』

岩手医科大学 脳神経内科・老年科講師 工藤雅子先生は、データをもとに認知症と生活習慣病との発症の関連や残歯との関連、薬物療法と非薬物療法について、受診のタイミング、どう接したらよいか、早期介入の重要性などお話しされました。参加者からの質問を受けて、認知症に対する市民意識が向上しているものの、問題意識が低い方たちへの支援の課題、包括担当者と地域での face to face の関係が大切と講演されました。

セッション2. ～多職種による事例検討グループディスカッション～

要介護1独居の認知症患者について、自宅で暮らしたい方をどのように支えていったらよいか、訪問看護ステーションあゆみの看護師櫻井聡美氏とホームクリニックえんの千葉医師から事例提供があり、グループワークを行いました。家族関係、住居周囲の環境、内服、食事、入浴、訪問拒否にどう対応したらよいか等を議論しました。認知症患者の思いを受け入れ、行動や言動に寄り添う視点についてたくさんの意見が出ました。

編集後記：今年、たびたび起こる台風の威力にはびっくりさせられました。「今までこんなことなかった」という人々の話を聞くと、何時どこに起こるかもしれない災害に備えておくことがとても大切に思われます。また、被災地で支援している姿を見ると感動を覚えます。それぞれが考え、行動していくことが安心の第一歩につながるのだと思います。

発行：〒024-8506

北上市花園町1丁目6-8

(北上済生会病院管理棟2階)

北上市在宅医療介護連携支援センター

TEL 0197-88-3011

FAX 0197-88-3012